



■主な内容

- ・UIFA JAPON 2025年度 第33回通常総会報告
- ・特集：UIFA JAPON 総会記念講演会
「土浦亀城邸の復原・移築」を聞いて
～土浦邸1935年の姿を再現した安田幸一氏の仕事～
- ・会員が発掘した本
土浦信子による住宅設計提案



総会記念講演会後
講師安田幸一氏を
囲んで

UIFA JAPON 2025年度第33回通常総会報告 UIFA JAPON Annual Meeting Report 2025

伊藤 京子
ITO Kyoko



UIFA JAPON
伊藤 京子 会長

2025年6月14日（土）
11:00～11:45、建築会館会議室301・302会議室において昨年同様対面とオンラインのハイブリッド方式で2025年度UIFA JAPON通常総会が開催されました。正会員57名のうち46名から事前回答があった。会場出席者21名（対面15名、Zoom6名）、書面審議表決書提出者30名、委任状提出者16名の計46名で定足数を確認し総会が成立した。

第1号議案は2024年度活動総括報告に続き総務・財務、事業、広報・渉外の委員会、その他活動の報告、会計報告、監査報告があり賛成46名（書面：30・委任16）、反対0名で承認された。第2号議案（2025年度活動計画案、予算案）についても賛成46名で承認された。尚、すべての議案について質疑応答は無かった。

総会後に開催した講演会もハイブリッド方式で開催し

多くの方に参加していただき音声等不手際もあったが無事終わることが出来た。これも、皆様のご協力のおかげと感謝する。ありがとうございました。

コロナ禍から始めたZoomの総会・講演会ですが遠方の会員・時間が取れない会員にとっては参加しやすく良い方法だと実感している。しかし、皆様に直接お目にかかりお話をするとやはり楽しく嬉しいものである。講演会終了後講師の安田幸一先生や講演会出席者と近くのカフェでお茶を飲みながら交流し、その後も有志で食事を取りZoomでは味わえない楽しい時間を送る事が出来た。

■今後の活動について

「1×1プロジェクト」では会員の皆様が力を合わせて一つの事業に取り組むことが出来た。今後もこのような全員が参加できるような事業を企画したい。また、大阪国際博覧会が開催され、建築の話題も多くなり海外との交流も深まっている。基本活動の継続と充実をめざしながら設立当初の目的を忘れず活発に活動し海外交流もしていきたい。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

オンラインでの総会が続き、久々の登壇にやや緊張気味の各発表者

- ① 岸本 裕子：司会
- ② 森田 美紀：総務報告
- ③ 小野 全子：事業報告
- ④ 薄井 温子：広報・渉外報告
- ⑤ 宮本 伸子：法支支援・
どこでもカフェ報告
- ⑥ 松川 淳子：源流研究会・
だれでもフォトグラファー報告
- ⑦ 飯田 とわ：会計報告
- ⑧ 岩井 紘子・稲垣 弘子：監査報告

（このページの写真全て：井出 幸子）

「土浦亀城邸の復原・移築」を聞いて～土浦邸1935年の姿を再現した安田幸一氏の仕事～
 The Restoration and Relocation of the Kameki Tsuchiura Residence
 ~Architect Koichi Yasuda, Discusses Recreating the House as It Appeared in 1935~

中島 明子

NAKAJIMA Akiko



講師：安田 幸一氏
 建築家・安田アトリエ主宰・
 東京工業大学名誉教授
 (写真：井出 幸子)

近代日本におけるモダニズム住宅である土浦亀城と妻信子の自邸は、1935年に建設された。白い箱を積み上げた美しい外観と内部は見る人に強く印象づける建物だ。2人が亡くなる少し前の1995年には土浦邸は東京都指定有形文化財に指定され、1999年にはDOCOMOMO Japan 20選に選定された。その後の保存継承について一抹の不安を感じていたが、2024年

に南青山のポーラ青山ビルディングの敷地に「復原・移築」が実現したのだ。このことは住宅史上・建築史上、生活文化史上において誠に画期的だと思う。

この「復原・移築」プロジェクトに6年にわたり取り組まれたのが建築家・安田幸一氏（東京工業大学名誉教授）。安田氏がポーラ青山ビルディングの設計とデザイン総括を担当していたことから、土浦邸がその敷地内に移築されることになった。

6月14日、UIFA JAPONの総会記念講演で、このプロジェクトを推進された安田幸一氏をお招きし、土浦邸の「移築」の経緯と「復原」手法についてお話を伺った。会場は日本建築学会建築会館で、オンラインの併用で会場とオンラインあわせて約50名の参加だった。

■日本における独自のモダニズム建築の嚆矢・土浦邸

土浦邸の建設は、ライトによる帝国ホテルが建設され、レーモンドが日本で仕事を始めた時期である。海外ではフランスにコルビュジエが、ドイツではジードルング（集合住宅）、グロピウス等が活躍する近代建築の輝かしい時代だった。土浦邸はそうした海外のモダニズム建築の面影があるものの、土浦氏独自の日本における木造乾式工法による建築である。

土浦邸は現存する建物の前、1932年に第一がつくられ、広い居間での生活を楽しんでいたが、規模を変えて後の第二の土浦邸の基本的構成になっている。

■復原の方針ー1935年に復原する

1995年に東京都有形文化財の指定を受けたが、1935年の創建時の姿に戻す「復原」に決定。次世代に参考にしたいという意図もあった。

土浦邸の近代住宅五原則を、スケッチ、図面や雑誌に掲載された写真等からまとめた。

1. 立面：2×3尺M・角Rのホワイト・キューブ
2. 構法：木造乾式構法と湿式陸屋根
3. 空間：機能的な平面とスキップフロア
4. 色彩：淡いグレーの壁面と黄色のカーテン(オリジナルの色彩を特定するために写真から読み取る)
5. 設備：実験的な天井パネルヒーティング(但し測定できず効果は不明)と衛生設備となる。

表1 土浦亀城邸建設時の日本と世界の住宅動向

		重要な10年間																				
国	建築家・出身	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940
日本	土浦亀城			1922																		
	ライト			1922																		
	土浦亀城・信子																					
	ノイトラ オーストリア																					
	シンドラー オーストリア																					
	フォイエールシュタイン チェコ																					
	レーモンド チェコ																					
藤井厚二																						
アメリカ	超高層ビル																					
	ニューヨーク近代美術館																					
	レスカズ スイスから移民																					
ドイツ	ミース ほか																					
スペイン	ミース 後にアメリカへ移住																					
チェコ	ロース																					
フランス	コルビュジエ																					

配布資料より

■ポーラ青山ビルディングに「移築」そして「復原」

文化財として躯体を健全な状態にするために、木軸・小屋組・仕上げを解体し、腐朽した箇所を取り除き、部材の一本一本の健康状態を確認していった。別の敷地でも再生可能であることから「移築」を視野に入れ、2019年に安田氏関わっていたポーラ青山ビルディングが受け入れを許諾、都からも「復原・移築」の許可が得られた。こうして土浦邸は2024年に移築、復原が完了し、文化財再指定を受け蘇った。

復原過程では建物躯体、設備、内装に至るまで細部に亘り再現している。照明器具は和紙で作直し、木製ブラインドは電動に、ベッドやスツールの復原、家具については写真から3Dへさらに二次元制作図から復原。色彩については「こすり出し」手法により特定する等、数々の試みをしていることに感嘆した。

■信子さんの影響

妻信子さんの関与の跡は、台所の施設設備・食器棚、バスルームの衛生陶器の設置、制作された絵の展示等に明らかに見られるが、他に亀城とのどのような協働があったのかはわからない。

■「復原・移築」の総力戦

講演後、初めて女性として土浦事務所に入所した小川信子先生から、「個人的にも思い出深い土浦邸。土浦先生の志が今になってわかりました。ありがとうございました」と感想を述べられた。

そして安田氏は最後の質問に答え、「保存/復原するということは、土浦さんが何をしようとしていたのかを掴み、その上で対処するために、小川先生をはじめ土浦氏縁の方々に話を伺い、研究室のメンバー、建築史家、雑誌社等の多くの方々との総力戦で6年間取り組んできた」「それは幸運でもあった」と感慨深く述べられた。土浦邸の「復原・移築」の実現の意義を印象付けられた講演会であった。

.....

安田幸一氏主な作品：ポーラ美術館、東京造形大学 CS PLAZA、大分マリンパレス水族館うみたまご・あそびいち、東京工業大学附属図書館、福田美術館、ポーラ青山ビル等
 著書：ニューヨーク・モダンリビング（丸善）、建築設計資料水族館（建築資料社）、林昌二の仕事（新建築社）、土浦亀城邸（鹿島出版会）等



2020年5月15日全景 品川区上大崎
(写真：石黒守)



2022年11月17日全景 解体が始まり、居間大型開口上部のトラスが現れる(写真：石黒守)



2024年全景 ポーラ青山ビル隣に移築
(写真：土浦亀城アーカイブス)



1935年新建築誌より
当初の室内図が掲載されていた



2024年土浦邸内部は当初の色彩で復原
(写真：土浦亀城アーカイブス)



土浦信子・亀城ご夫妻
階段の色等がピーコックブルーだった
室内の色の変遷がわかり興味深い
(写真提供：小川信子氏)

UIFA JAPON 事務局

〒102-0083

東京都千代田区麹町 2-5-4

第2 押田ビル (株)生活構造研究所内

Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866

E-mail: uifa@liql.co.jp

URL: <http://uifa-japon.com>

発行 2025年8月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON

c/o LABORATORY FOR INNOVATORS
OF QUANTITY OF LIFE
DAINI-OSHIDA BLDG.
2-5-4, KOUJIMACHI, CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN 〒102-0083

PHONE :+81-3-5275-7861

FAX :+81-3-5275-7866

URL :<http://uifa-japon.com>

会員が発掘した本

土浦信子による住宅設計提案

Housing Design Proposal by Nobuko Tsuchiura

宮本 伸子 MIYAMOTO Nobuko

『朝日住宅圖案集』(昭和4年6月2日発行、朝日新聞社)

昭和4年2月朝日新聞社が新時代の中小住宅図案を募集し、これに土浦信子が応募しており、7号型として入選して銀賞を受賞したことは知られていると思う。この設計競技の結果が昭和4年6月に『朝日住宅圖案集—懸賞中小住宅八十五案』として刊行された。その後増刷され、昭和11年4月の第9版発行版が私の手元にある(私の祖父の遺品)。

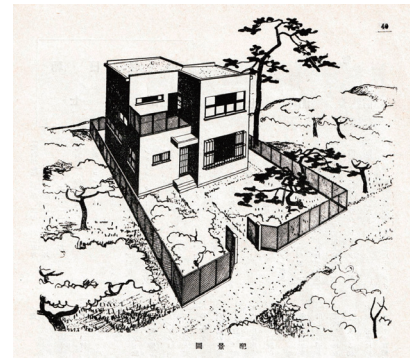
設計競技としては家族構成と工事費(土浦案は甲種で、夫婦と子供2、3人と女中、設備と外構を除く建築費が五千円以内)、敷地は東京近郊で五十坪内外という条件であった。構造や材料等はすぐに建てられることを条件としており、特に上位の16案については誰でもそのまま建てても良いとされ、成城学園前において実際に建てて展示会を開くことを想定していた。

掲載された85案、特に上位の16案と、その中の土浦信子の案を比べるといくつかの特色に気が付く。最も特色があるのは、数少ない陸屋根であることであり、入賞作の中では唯一である。外観としては洋風を取り入れている住宅が多いが、陸屋根はまだ一般的でなかったと想像するが、土浦案では仕上げもアスファルトルーフィング三層、シンダーコンクリート及モルタル塗仕上げと明示されている。



化粧箱タイトル

平面図と設計の特長の文章を読むと、部屋ごとの収納の考え方が示されていて、次項で述べる「住宅と主婦の考案」で言及されている家事に対する利便の追及につながっている。



7号型の土浦案の配景図*

特に他の設計者に無い台所内の冷蔵庫(氷式)の置き場を勝手口の近くとし、排水溝をつけるところまで指示している。*原題のまま。現在のパース図にあたる(編集委員会)

『今日の住宅』(昭和10年12月5日発行、アサヒグラフ編、朝日新聞社)

この本では、「I 住宅概説」から「VII 今日の住宅とは」まで、29項目を21人が執筆し、今井兼次、山田守等のそうそうたる顔ぶれが並ぶ。土浦信子は、「III 住宅細部」の中で「住宅と主婦の考案」という一文を寄せている。この中では冒頭に、「明るく朗らかに而も便利に考案された建築の中では、どんな仕事でも喜んで愉快地働く事が出来ます。」とされ、土浦邸でなじみ深い壁収納式のアイロン台やまな板の他、衣類の整理の工夫、浴室の洗濯物入れ、ボイラーのパイプを活用した乾燥戸棚などの取り組みを紹介している。

以上の2冊については、『住宅建築文献集成』(2009~2013年発行、内田青蔵編集、柏書房、全27巻)の中に収められていて建築系の学科等を有する図書館等で閲覧することができる。

UIFA JAPONのWebサイトではこの2冊の中、土浦信子の提案を読むことができる。右QRコードでアクセス可能



■役員会報告

2025年度第1回/2025年5月1日 今年度、総会・記念講演会準備 3月能登カフェ報告 源流研島羽邸訪問報告 IAWAアドバイザー会議報告 ミニニュースなどメール配信準備 NL130号発行

2025年度第2回/2025年7月24日 総会・記念講演会報告 WEB交流会準備再開 オンライン講演会準備 珠洲市宝立生徒作ステッカー配布報告 法末はがき交流報告 首都防災カフェ準備 NL131号編集報告

■編集委員からひとこと

母方の祖父から引き継いだ書籍で祖父が家を建てる想いの熱さに触れた(宮本)/実家銭湯75年の写真記録を136頁の冊子にまとめた。きょうだけの限定4部印刷。増刷助言もあるが・・・はて!(井出)/初めての山形訪問。暑すぎて、近すぎて(飛行機で50分)、東北地方にいることを忘れそうだった(有村)/どこまで暑くなるのか? 熊も人間も熱中症になってしまう、くまんなあ・・・(薄井)/終活の片付けに追われるも、出て来る昔日の記録に見入る時間多く、作業は捗らず(平野啓)/この夏、長崎での原水爆禁止2025世界大会に参加することになり、平和を守っていききたいと改めて思う(牛山編集長)